ごみの分別・減量をさらに
～クリーンセンターの運転状況～

12月に開催されたクリーンセンター運営協議会で、施設の運転状況及び排ガスなどの各種分析結果の報告があり、2023年４月～９月のごみの状況が明らかとなりました。

ごみ焼却施設への可燃ごみの搬入量のうち、市民のごみは昨年比 6.89% (約729トン)の減少、不燃・粗大ごみの中の焼却分も13.23%(約126トン)の減少です。

不燃・粗大ごみ処理施設での処理量は、昨年比で不燃ごみは16.42%(約92トン)、粗大ごみは8.55%(約63トン)、有害ごみは4.46%(２トン) 減少しています。

リチウムイオン電池が取り外せない小型家電は処理業者に搬出していますが、8.02%(0.13トン) 増えています。これまで不燃ごみに出されていたものが、市民への啓発により分別が進んだものと考えています。

また、①排ガス、②排水、③騒音・振動、④悪臭、⑤ごみ質などの分析結果も報告され、いずれも基準値以内でした。

二ツ塚処分場に持ち込む焼却灰については、毎月放射性物質の測定が行われています。

基準値の8,000Bq/kg※に対して、7月～９月は34～54Bq/kgと低い数値となっています。

クリーンセンターの運転状況は、武蔵野市のホームページで公開しています。さらに分別・減量を進めていきましょう。 ※Bq/kg＝ベクレル・パー・キログラム
水や灰など１kg に含まれる放射性物質の単位。

リチウムイオン電池の正しい処理を

昨年11月18日、江東区にある東京23区の粗大ごみ処理施設で火災がおきました。リチウムイオン電池が入っていたことによる発火事故で、処理施設は稼働停止になりました。

武蔵野市でも昨年７月に道路上で収集中のごみ収集車の発煙事故がありました。原因はモバイルバッテリー(リチウムイオン電池)でした。大事にはいたらなかったものの、リチウムイオン電池を使った小型家電などが増えていることから、発火事故とならないよう、「危険・有害ごみ」として出すことを呼びかけています。

まちのできごと

どんど焼きとむかしあそび

1月13日(土)に市立大野田小学校でどんど焼きとむかしあそびが行われ、およそ1,000人の老若男女が無病息災を祈願しました。３年ぶりにお汁粉、マシュマロ焼きが復活し「龍」のような長蛇の列が出現。むかしあそびでは、500枚用意したスタンプラリーの台紙が足りなくなる盛況ぶりでした。多くの来場者が「マイ食器」持参で、エコの意識の高さがうかがわれました。

共催するけやきコミセン・緑町コミセン・青少協・『あそべえ』に加え PTAや消防団など協力団体の連携よく、成功裏に終えることができました。

令和５年度　活動報告

■令和５年

4/20　第252回　運営協議会会議
5/29　第253回　運営協議会会議
7/ 6　委員研修　参加 15名
　　加藤商事リサイクルプラント、二ツ塚処分場
8/ 2　第254回　運営協議会会議
9/27　第255回　運営協議会会議
9/29　バス研修　参加 31名　三富今昔村
9/30　「運営協議会だより」第83号発行
11/19 運営協議会イベント実施
12/21 第256回　運営協議会会議

■令和６年

2/16、21、26、3/6、11、15
　　環境健康診断実施　申込者125名
2/20 第257回　運営協議会会議
3/31 「運営協議会だより」第84号発行

＊編集後記＊

能登半島地震の被害の大きさ、復興の困難さを思い心が痛みます。他人事ではなく、私たちの町もいつ地震が起きてもおかしくないと言われており、日頃からの備えや隣近所の助け合いが改めて大切と思いました。災害ごみの処理も大きな問題となります。その時クリーンセンターの機能は大丈夫か、市民の協力はできるかなど課題がありますね。(興梠信子)

編集・発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012　武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
https://www.city.musashino.lg.jp/

＊この広報は、再生紙を使用しています。

令和6(2024)年3月31日発行　第84号

武蔵野クリーンセンター

運営協議会だより 84

CONTENTS

Ｐ１…運営協議会イベント
地域でつながる・学ぶ・楽しむ
Ｐ２…バス研修会報告　三富今昔村
ごみの資源化と里山環境教育
Ｐ４…ごみの分別・減量をさらに
リチウムイオン電池の正しい処理を
まちのできごと
令和５年度 活動報告

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺３地域４団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

令和５年11月19日(日)、クリーンセンター運営協議会のイベントを、クリーンセンターのエコマルシェ、エコ re ゾートの環境フェスタと同時開催し、子どもから大人まで多くの来場者で賑わいました。「地元野菜の販売」をエコ re ゾート入り口前のどんぐり広場で、リチウムイオン電池の分別についての「ミニ講座」と「第四中学校吹奏楽部ミニコンサート」をエコ re ゾートのフリースペースで実施しました。

●ミニ講座
リチウムイオン電池の分別について

リチウムイオン電池による発煙・発火事故が全国的に社会問題化しており、クリーンセンターにおいてもさまざまな対策を行っています。

リチウムイオン電池は、危険・有害ごみですが、燃やさないごみに混入すると、粉砕した際に発煙・発火に至ることがあり危険です。

市民のみなさんの生活を支えるごみ処理を安全かつ安定的に行うため、リチウムイオン電池に圧力を加えて発煙・発火する実験動画や火災事故の写真などを交えて危険性を伝えるとともに、正しい出し方について紹介しました。

終了後のアンケートでは、「リチウムイオン電池がたくさんの家電に使われているのでびっくりした」「今年、市内に引越ししたばかりなので、大変勉強になった」などの感想が寄せられました。

●ミニコンサート
市立第四中学校 吹奏楽部演奏会

軽快なマーチ、童謡メドレー、映画「アラジン」・アニメ「推しの子」の楽曲など、全５曲のプログラム。

明るく時に叙情的な音色に引き込まれ、150人程の聴衆からは、「演奏がすばらしかった」「もっと聴きたかった」「すてきな催しをありがとうございました」という感想が寄せられました。

＊顧問の先生より＊　地域のみなさまの前で演奏できる機会は大変貴重です。当部の活動を認知していただき、応援してくださいますと生徒たちにとって大きな力になります。今回は、みなさまに楽しんでいただけるように、演奏だけでなく「語り」「歌」「踊り」も披露いたしました。

●野菜販売
旬の地元野菜がいっぱい

〝地域の食と農〟について考えるきっかけになればと地元野菜の販売を行いました。大きく立派な野菜が並ぶと思わず笑みがこぼれます。キャベツ・ブロッコリー・小松菜・ほうれん草・大根・かぶ・柿は100円、長ネギ・里芋・オレンジカリフラワーは200円でした。野菜販売は大好評で、30分程で売り切れました。

クリーンセンター運営協議会は、周辺住民の安心・安全のため、武蔵野クリーンセンターの監視役として活動しています。また、クリーンセンターは建て替え後、市民に開かれた施設として、ごみ処理の工程を自由に見学できるようになりました。

地球規模の環境変動が進む中、市民一人ひとりがごみ・資源・エネルギーなどに関心をもち、環境に配慮することが必要です。豊かな環境を次世代へ引き継ぐには、地域でこうした取り組みを広げていくことが大切で、運営協議会はその一端を担っています。

今後も多くの市民が地域とのつながりを通してクリーンセンターに親しみ、環境について一緒に考えられるような催しを行っていきたいと思います。

バス研修会報告 **三富今昔村**（さんとめこんじゃくむら）

持続可能な暮らしを目指して
ごみの資源化と里山環境教育

9月29日(金)、今年度のバス研修会は、埼玉県入間郡三芳町にある「三富今昔村」を訪問しました。

産業廃棄物処理を行う石坂産業株式会社の有する三富今昔村は、東京ドーム約４個分の敷地内に、ごみの資源再生工場、多くの生物が生息するくぬぎの森など豊かな自然、自社農園「石坂オーガニックファーム」などがあり、「廃棄物処理」と「里山保全」という事業を通じて、循環型社会を目指し環境問題に取り組んでいる施設です。

住宅廃材の完全資源化を目指して

資源再生工場は昭和46年創業で、関東全域から搬入される住宅の廃材を解体する際に出る産業廃棄物・がれき・建築廃材・コンクリート廃材などの分別処理を行っています。

三富今昔村の運営は、施設内の太陽光発電、風力発電、地熱発電などの再生可能エネルギーでまかなわれています。また、雨水を貯めて、搬入車両の洗浄や工場内の床面の清掃などに利用されています。

工場内は、「廃プラスチック類」、「廃コンクリート類」、「不燃系混合物」、「木材」などの再資源化プラントに分かれており、重機で素材毎に仕分けています。瓦やサッシ、タイル、柱など、混合して持ち込まれた建材が見事に選別されていきます。

現在、同社が扱う産業廃棄物のうち、98%が新しい素材として生まれ変わり、最終処分場に埋め立てられるのはわずか 2%。今後は完全資源化できる住宅が研究されているとのことです。

運ばれてきた住宅廃材を重機で解体、選別していきます。
工場内で生じる粉塵は、1～10ミクロンまでの埃をキャッチする集塵機で処理されます。

見学や里山体験などで学ぶ

村内には工場見学の他にも、豊かな里山の中でさまざまな体験型のプログラムが豊富にあり、子連れの家族も多く訪れ、年間約55,000人もの来場者があります。

資源再生工場の見学者通路には、壁面に来場者のコメントがびっしり書かれています。〝脱炭素社会の実現を目指して活動されている姿勢に感動しました〟など、この工場の果たす重要な役割について、心を動かされたというコメントが多いようでした。

午後は里山体験

午後は、工場の周りにひろがる東京ドーム約４個分の雑木林を中心としたサスティナブルフィールドを自由に見学しました。埼玉県で唯一「体験の機会の場※」の認定を受けたフィールドです。

※自然体験活動等、環境保全の意欲増進に係る体験

〝やまゆり鉄道〟という太陽光発電の電力で稼働するミニSLは、全長420m、カフェやパン工房などを俯瞰しながら里山の風景の中を6分間走行します。

林内には、木々の間をぬってゆったりとした幅の通路があり、木のチップが敷き詰められていて、柔らかくとても歩きやすい感触が楽しめます。

また、枕木がびっしり敷き詰められた通路もありました。この枕木は、地元の鉄道会社(西武鉄道)より無償でレール類とともに提供されました。廃材の有効活用なのだと感心しました。

混ざり合った廃棄物を、色・質感・光沢に応じて、スタッフが素材ごとに手選別します。マグネット重機とスタッフにより、鉄と非鉄類を分類。さらに住宅建材などを素材ごとに分解していきます。

太陽光発電で走る〝やまゆり鉄道〟のミニSL は、子どもたちに大人気です。

林の中の枕木が敷き詰められた通路。ここは以前10000トンの不法投棄があった場所でしたが、全て片づけ、ハーブを植えて『10000の丘』とよばれるハーブガーデンになっています。

見学を終えて

昼食は、石坂オーガニックファーム産全粒粉小麦の「武蔵野うどん」をいただきました。

村内にはごみ箱は一つもなく、来場者のごみは全て持ち帰りです。ペットボトル飲料の自動販売機も置かれていません。

お土産ショップで、念願の自家製天然酵母食パン 1 斤を購入しました。重量約700g、高さは21cmもあって、ずっしりと重たく、さといもパウンドケーキと並んで、お土産品ベスト2なのだとか。

次回はより多くの方が参加していただけるような企画で、バス研修会を開催できればと願う次第です。

集合時間や団体行動にご協力いただき、けがなどもなく終えられたことを、運協委員の一人として感謝いたします。(狩野耕一郎)